

「原発ゼロをめざす島根の会」が総会

原発のない安全・安心な島根を



視察報告をする樋野伸一氏

7月25日、「原発ゼロをめざす島根の会」の第7回総会が、教育会館において開催された。

総会には、先立って、ゼロの会共同代表の樋野伸一氏と民主青年同盟島根県委員会の吉井安見氏が、福島視察報告を行いました。

樋野氏は、福島原発の事故以来毎年福島に出向き、事故から8年半経過した現在、国は、オリンピック開催のため聖火の走る浴道から見える汚染土の入ったフレコンバッグを処理するために必死になっていること、福島住民は時が経つほど自殺者が増えていることを報告しました。

吉井氏は、帰還困難区域が

解除されても住民は戻らず、学校がなくなっていく状況を報告しました。

総会は、丸山知事に対して「原発は稼働しないことを求める要望書」を昨年12月に提出したこと。今年2月、中電がサイトバンク建物の巡視を怠っていたことをめぐる問題で、抗議の申し入れを会として行ったことなどを報告。2019年度決算案・2020年度予算案・2020年度活動方針案を承認。会の役員・事務局体制案も承認されました。会の役員である共同代表

市内河川・お堀の在来種保護活動

尾村利成県議と田中はじめ市議 舟木健治市議予定候補は7月22日、市内河川・お堀の在来種保護活動に取り組んでおられるボランティアの遠藤修一氏（市内東津田）、公益財団法人

ホシザキグリーン財団の小林浩司氏らから、外来種ミシシippアカミミガメの駆除の活動を受けました。

ボランティア活動へ市民の関心と行政の支援を



外来生物を捕獲するかごを引上げるボランティアの方

在来種を脅かすミシシippアカミミガメ

当日は、東津田の馬橋川、大手前堀川遊覧船船着き場、天神川で捕獲活動が行われ、県の環境生活部、及び、市の環境保全部の担当者、新聞・マールテレビなどの報道各社も参加する中、引き上げられたワナから21匹のミシシippアカミミガメが捕獲されました。

遠藤氏らは、今年5月から、駆除のための捕獲用ワナを4か所に設置し活動を開始しました。遠藤・小林両氏は、「ミシシippアカミミガメの繁殖力は在来種クサガメと比べて数倍も大きく、放置すれば、水の都松江の市内河川に大繁殖し、在来種の生存が危ぶまれる。県と市あげて、駆除に対する予算をつけ、在来種保護活動への市民参加を呼び掛けてほしい」と訴えています。

「島根の会」が県教委に要請

7月20日、「ゆきとどいた教育を進める島根の会」（代表：小松雪乃氏）は、県教育委員会に対して「コロナ禍で

も子どもたちや教職員がゆとりをもって学び、健やかに学校生活を送ることができるよう対策」を要請しました。

日本共産党尾村利成・大國陽介両県議、橋祥朗・吉儀敬子の松江市議団、舟木健治県党労働部長が同席しました。

同会の構成団体である県教組・新婦人・母親連絡会・県退職教員の会の4団体から7名が参加。▽小人数学級推進を国へ要望し、県が来年度予定している小人数学級編成縮小の凍結▽教職員の負担を減



県教委に要請する「ゆきとどいた教育を進める島根の会」のメンバー

核兵器のない平和な世界を

平和大行進代表が市役所訪問

7月20日、核兵器廃絶をめざす「国民平和大行進」が島根県入りしました。コロナ禍のもと今年は富山からの通行は難しく、各地域での自治

体訪問が行われ、島根県では代表者がそれぞれ、安来市、島根県、松江市、出雲市、雲南市、奥出雲町、飯南町を訪問しました。

21日の松江市役所へは、原水爆禁止島根県協議会の代表理事・西尾幸子さん、西村容子さん、生協労組の原大輔さん、井上かおりさん、橋祥朗、吉儀敬子の両松江市議が訪問し、小村隆総務部次長、角清司議事事務局長らと懇談しました。

西尾幸子さんは「女学校の同級生のほとんどを原爆で亡くした。島根に疎開して無事だった自分が、亡くなっ



市長、議長からのペナントを受け取る代表団

た友人の思いを伝えていかなければならない」と語りました。

小村次長は「核兵器のない世界を作ることが市民が等しく願っていること」と話し、角事務局長は「語り部として頑張っておられる西尾さんやみなさんの活動に敬意を表したい」と激励しました。

代表団には、松浦正敬市長と森脇幸好議長からのペナントが託されました。

今年の原水禁世界大会はオンライン開催となりましたが、各地で平和展や朗読劇など多彩な取り組みが行われています。

は、岡崎由美子氏（自由法曹団島根支部）、長谷川敏郎氏（県農民運動連合会）、樋野伸一氏（県民主医療機関連連会）、諸遊克己氏（県商工団体連合会）、山崎泰子氏（新婦人県本部）が再選されました。